

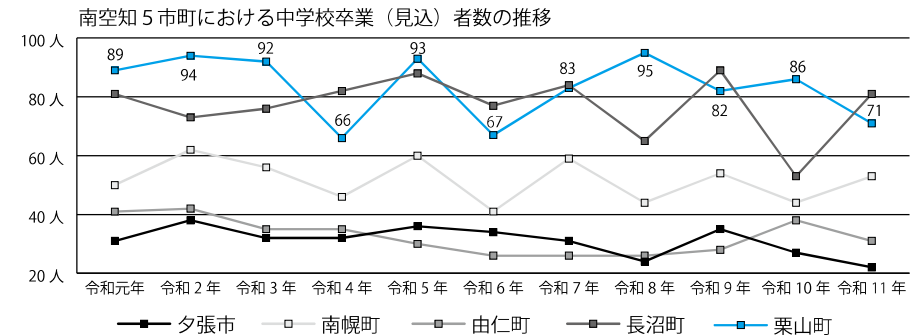


魅力ある学校・選ばれる学校へ
栗山で学び、栗山で輝く
 栗山高校の魅力づくり

◆来年度の募集間口は2間口維持

北海道教育委員会は9月7日、令和3年度から2年間の公立高等学校配置計画を決定・公表し、今春の入試で1学級相当以上の欠員のため学級減となった長沼高校や砂川高校など9校は、中学校卒業者の増加を見込み各1学級の復活、空知管内では既に夕張高校へ導入済みの「地域連携特例校」に月形高校の移行などが盛り込まれました。

栗山高校の令和3年度募集間口は、引き続き2間口維持の決定内容でしたが、今後も生徒数が減少傾向にある中、道教委による定員調整が進められる可能性もあり、生徒確保対策や魅力ある学校づくりの実現に向けて危機感をもって取り組む必要があります。



実数← | →推計 (単位: 人)

市町村名	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
夕張市	31	38	32	32	36	34	31	24	35	27	22
南幌町	50	62	56	46	60	41	59	44	54	44	53
由仁町	41	42	35	35	30	26	26	28	28	38	31
長沼町	81	73	76	82	88	77	84	65	89	53	81
栗山町	89	94	92	66	93	67	83	95	82	86	71
空知南学区	1,195	1,135	1,125	1,090	1,107	1,001	1,056	1,037	1,024	941	965
対前年比	▲85	▲60	▲10	▲35	17	▲106	55	▲19	▲13	▲83	24
北海道内	44,255	42,496	41,004	41,859	41,200	41,056	40,179	40,128	39,448		
対前年比	▲734	▲1,759	▲1,492	855	▲659	▲144	▲877	▲51	▲680		

◆栗山高校を支援する各種取組

今後も募集定員調整や再編整備が進む公立高配置計画の動向、さらなる少子化の進行、学校選択の多様化など、栗山高校を取り巻く環境は依然として厳しい状況に変わりはありません。

まちの将来の担い手を育成する上で欠くことのできない栗山高校の存続は、町政の重要課題の一つに位置付けし、高校と連携して各種取組を展開しています。

今春以降、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、会議等開催を見合わせていましたが、7月以降、

- ・栗山高校の間口確保を図るための陳情要請や高校教育のあり方の検討協議を行うことを目的に町内各層により構成される「北海道栗山高等学校を支援する会」の総会
- ・栗山高校の将来的なあり方や魅力ある学校づくり等の調査および検討を目的とした「北海道栗山高等学校の魅力づくり委員会」
- ・栗山高校に在学している生徒の資質向上などを目的とした支援に関する事項を検討する「北海道栗山高等学校支援検討委員会」をそれぞれ開催し活発に議論されています。

ています。

現在、魅力づくり委員会では、「地域にとつてどのような人材を育んでほしいか」、また「栗山高校がこうあってほしい」という町民の願いに関する議論が進められています。今後具体化を図り、今年度中を目途に一定の方向性をまとめ、町長への報告が行われる予定です。

◆女子硬式野球部設立(案)の提言

本年2月、町民有志による組織「南ぞらち青年経済人研究会(塩見望代表理事)」と「一般社団法人栗山青年会議所(山本克幸理



令和2年度第1回魅力づくり委員会(令和2年8月24日)

事長)より北海道ボールパーク誕生に向けた取り組みに関する提言書が佐々木町長へ提出されました。

主な提言内容は、2023年に北広島市に開業予定のボールパークに関連した新たなまちづくり構想として大きく3つの具体的手法が示されています。

7月に入り、佐々木町長より提言への回答がされ、このうち、栗山高校女子硬式野球部設立(案)は、定員割れが続く栗山高校の生徒確保はもとより、移住・定住促進など、あらゆる可能性を秘めた手法であると同時に、北広島市が推進する「ボールパーク構想」での新たな産業集積・起業促進、スポーツ関連産業の拡大、特色ある教育環境の充実など、持続可能なまちづくりの実現に繋がるものと考えており、栗山高校の魅力化を図る一つの手法として検討を進める旨の回答がありました。

実現に向けては、指導者確保をはじめ、施設や衣食住環境整備と費用面の確保など、さまざまな課題がありますが、まちづくりの観点からもボールパーク関連事業との連携を図り、関係者の皆さんとともに調査・研究を進めています。

◆まちで育むキャリア教育

栗山高校では地域や町内企業との連携のもと、総合探求の時間や就業体験学習(インターンシップ)など、地域に根差したキャリア教育が実践されています。(18ページ「まちの話題」で就業体験学習の記事を掲載しています)

また、3年生の選択科目「生活と福祉」では、平成26年度に北海道介護福祉学校との間に締結した連携協定による介護実習体験授業が実施されています。

今年度は14人の生徒が選択さ



れ、介護福祉学校の人材や設備を活用した職業体験を通して、地域の福祉教育が推進されています。

◆栗山高等学校と北海道介護福祉学校の関係

専任教員 田中裕子

「すごい」、「なるほど」とプロフェッショナルの介護技術に栗高生の驚嘆が連続する。栗山高等学校との連携による「生活と福祉」の授業。

平成26年に北海道介護福祉学校と栗山高等学校が協定を結んで以来、毎年10人前後の栗高生が年に3回ほど「栗高バジョーン」の授業を介護福祉学校で受

けています。この授業がきっかけとなり本校に進学し、介護福祉士として地域で活躍している方も多数います。

介護は私たちの生活に身近であるがゆえに、当たり前のことになっているのかもしれない。しかし、これからの社会の変化を見据えた時、「栗高で体験したこと、介護学校で学んだことが次世代を担う若者たちに伝われば」と、私たちの「知識と技術と熱い想い」を彼らに注いでいます。

